

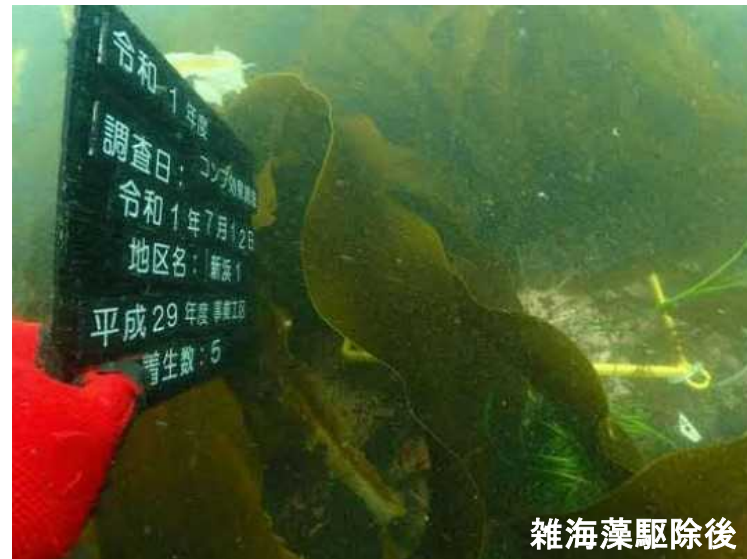
えりも町沿岸の天然コンブ漁場における ブルーカーボンによるCO₂吸収量の調査を開始



- えりも町では、明治以降、燃料としての木々の伐採や、牛・馬・綿羊の放牧などによって、大地は砂漠化しました。えりも岬特有の強風によって舞い上がった赤土は沿岸の海を濁らせ、海藻類は根腐れをおこし、回遊魚や沿岸の魚も減少しました。このため、関係者が一丸となって緑化事業を実施し、豊かな緑と海の資源を回復させました。
- この緑化事業は現在でも継続して行われており、さらに、コンブ漁場を守るため雑海藻駆除も実施されています。これらの取組は、緑と海の資源確保だけではなく、グリーンカーボンとブルーカーボンによるCO₂吸収の観点で、現在では、その重要性が増しています。
- 北海道開発局及び寒地土木研究所は、北海道大学大学院情報科学研究院、えりも町、えりも漁業協同組合と連携し、ゼロカーボン北海道の実現に貢献するため、えりも町沿岸の天然コンブ漁場を対象としたブルーカーボンによるCO₂吸収量の調査を行います。



雑海藻駆除前



雑海藻駆除後

雑海藻駆除による天然コンブの増加(えりも町)

- 北海道開発局と寒地土木研究所は、ブルーカーボンによるCO₂吸収に関する調査・推計の実績に基づき、えりも町とえりも漁業協同組合が実施するドローンや潜水士による現地調査結果から、両者が連携し、天然コンブ漁場のCO₂吸収量をして把握します。
- さらに、北海道大学大学院情報科学研究院・長谷山研究室とも連携して、ドローンによる撮影画像からAIにより、海藻類の広大な生息面積を効率的に算出する技術開発を進めます。

えりも町 えりも漁業協同組合

- コンブの生育状況の水中調査
- ドローンによるコンブ漁場の空中撮影

北海道開発局 寒地土木研究所

- CO₂吸収の調査・推計方法に関する技術的な助言

北海道大学大学院 情報科学研究院

- AIを用いた画像処理による効率的な海藻面積の把握

連携

広大な天然コンブ漁場における
ブルーカーボンによるCO₂吸収量の効率的な把握

えりも町の天然コンブ漁獲量
・1,589t(2020年):全国第1位
※海面漁業生産統計調査
※北海道水産現勢



えりも町周辺の天然コンブ漁の実施工区

想定スケジュール

5月	関係者による検討会設置
6月	えりも町周辺での現地調査
年内	CO ₂ 吸収量の算定